

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No. 29

目次

特集：東日本大震災における看護支援を考える	1
これから行われる学術集会・研修会情報（2011年10月～12月）	3
第7回生殖看護実践セミナーのお知らせ	4
勉強会の支援	4
各地区で開催する勉強会報告（関東地区、東海地区）	5
第9回学術集会のお誘い	6
理事会報告	6
もし不妊看護の現場で行き詰ったら	7
不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.10	7
掲示板	8
事務局からのお知らせ	8

特集：東日本大震災における看護支援を考える



日本生殖看護学会 理事長 森 明子

東日本大震災に被災された会員の皆様、また、被災されたご家族、ご親戚や、ご友人をお持ちの会員の皆様、そして、被災されたすべての方々にお見舞い申し上げます。

2011年3月11日14時46分、東日本を襲った激しい揺れ。太平洋岸一帯に広く大きな津波被害をもたらした大地震でした。その発生の一瞬前まで、誰が今に至る、この国の人々の生活、社会、思想の変化について予想できたでしょうか。この地震は私たちにとって、次の一瞬は一瞬前と同じ状態が続くとは限らないんだよ、ということをも痛く教えてくれました。平穏な時の流れで編まれる私たちの日常は当たり前のように続くことが決して保証されているわけではないのだということ。そして、「安全で豊かな社会」とはどういうことだろうかと考える機会を得たのでした。多くの先人たちが語ってきたように、このように無力で、おぼろげな、先の見えない状況だからこそ、人間の真実の姿が現れ、その真価が問われるのでしょうか。いのちの重み、いのちの意味、いのちの継承ということをあらためて考えてみる必要があります。

—東日本大震災の経験より—

スズキ記念病院看護部長 八木橋香津代

I. 東日本大震災の概要と被災時の当院の状況

2011年3月11日14時46分に宮城県牡鹿半島沖を震源として発生した地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西200kmの広範囲に及んだ。この地震により場所によっては、40.5mの津波が発生し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。私の勤務するスズキ記念病院は海岸から5kmのところの位置するが、病院の海岸側にある仙台東部道路の高速道路が津波をブロックする役目を果たしたため、仙台空港の様に水没することは避けることができた。

しかし、電気・水道・ガス・通信のライフラインは寸断され、全てが復旧するまでに10日間の期間を要した。地震発生直後は外来患者とその家族106名、入院患者35名、新生児21名、職員78名の合計240名が病院にいた。一旦は駐車場に避難させたが、15時45分大津波警報のため4階大ホールへ避難させ非常時の物品と食料品も4階へ上げた。4階大ホールの窓より、病院近くの川の橋げたギリギリまでの水位上昇と塩釜のコンビナート火

災が見えた。またスタッフのワンセグで仙台空港に津波が押し寄せるのを見た。18時40分津波警報解除となった時点で帰宅する患者もおり、病院内にとどまる人は、患者・家族118名、職員116名で234名となった。

II. 震災時の不妊看護

地震当日の13時に受精卵を子宮内に戻し、病室に骨盤高位で安静にしている患者がいた。15時が安静解除であったが、師長が地震発生直後に病院を見廻った時、ベッド上に起き上がり手すりに掴まっていた。安静解除まで15分早い、医学的には15分の安静で充分であることを説明し、本人も納得し帰宅した。この方は妊娠し、現在妊娠14週5日であり、当院で経過観察中である。

III. 培養室の情報

培養室では技師長を中心として、かねてより宮城県沖地震を想定し、地震対策を行っていた。一部を紹介すると、インキュベーターの下に厚い転倒防止のシートを敷いており、2段重ねのインキュベーターは中央部分に伸縮性のシリコンチューブを幾重にも巻き、壁にくくり付け自家製の免震対策をしていた。そのため、培養のディッシュが動いて慣性の法則により液漏れし、受精卵が外にこぼれるケースは一件も発生していない。また自家発電の故障により、インキュベーターでの培養を続けることが不可能となったため、院内での緊急会議を経て、全ての受精卵を凍結した。通信が途絶え、患者との連絡がつかないために、承諾を得ないままの凍結となったが、翌日来院した患者からは大変感謝されたということであった。次回の地震に備えて、事前に震災を含めて培養困難となった時の凍結を承諾することや、例えば建物の倒壊など状況によっては凍結できないこともある等の書類の整備は、地震後に早急に整備したことは言うまでもない。

IV. まとめ

総括を聞かれると、ありきたりだがやはり「備えあれば憂いなし」で、次の地震に備え不足していたマニュアルを整備し、現在食料備蓄が完了したところである。地震当日は、帰省していた助産師、自らが津波にのまれた看護師を除き看護職全員が病院に駆け付けてくれたが、ガソリン不足となり2週間泊まり込みの勤務となった。その間の市民生活は自衛隊からの給水を受けるために2～3時間並び、食料品を買うために3～5時間並ぶという状況が10日間も続いた。独身の職員は家に備蓄もなく、勤務で給水や買い出しに並べない状態であり、栄養科が朝・夕、私が昼の炊き出しを60名に対し2週間行った。やはり余震が続き、先の見えない中で管理者としては、職員のモチベーションを維持し続けるためにも、まず温かい食の確保がとても重要であった。

—東日本大震災における日本生殖看護学会の取り組み—

日本生殖看護学会 理事長 森 明子

震災発生からほどなくして、学会の対応について頭をめぐらしていたとき、ある理事から被災地の医療機関の看護職が不妊治療中の患者さんからの相談対応に追われているので、何とか支援したい、検討してくれないかと私の元に一報が入った。取り急ぎホームページ上に学会としてのお見舞いと所信を表明し、患者さんが当座の困った出来事にセルフケアし悩みを深めないようQ&Aを掲載するとともに、相談に関する応急措置をとった。その後、役員らの意向を確認し、理事幹事ら複数名のメールアドレスを掲載して相談対応することにした。これが3月下旬から4月下旬までのことだった。

さらに中長期的な支援を、ということで実践開発委員会担当理事の尽力で被災地以外の地域で活躍中の不妊症看護認定看護師の協力が得られることになり、4月末の連休入りと同時に電話相談を開始することになった。被災地の医療機関の看護師たちは、ご自分たちの周りの仕事、患者さんのケアで手一杯だろうということで、あえて被災地以外のメンバーに協力を求めた。これは本年8月末を目途に続けられる予定である。

こうした本会の活動について、日本看護系学会協議会、日本生殖医学会など関連機関等に情報提供した。

6月現在、これまでに寄せられた相談は数少ないが、原発事故の発生を受けて妊孕性や胎児・子どもへの放射線被害を心配する治療中の女性がいることがわかった。不妊や婦人科系の問題について相談に応じてくれる被災地の医療機関の情報を求める女性支援団体があった。刻々と変わる事態のなかで限られた情報をもとに放射線の専門家でもない私たちが適切な助言をするためにはどう備えたらよいか、また、私たちの持っている情報やネットワークをさらに拡げ周知するためにはどう動いたらよいかが課題である。

—電話相談の立ち上げと取り組みの実際—

実践開発委員会 橋村 富子

I. 相談の立ち上げ

日本看護協会神戸研修センター認定看護師教育課程修了生各年度の代表、地域毎の不妊症看護認定看護師（以下CNと略）ネットワークを通じ、北海道・愛知・福井・三重・関西・山陰・中国・四国・九州・沖縄で働く連絡可能であったCNに被災地域への支援について協力を依頼した。次に、支援システムを整えるための準備として、①対応可能と申し出のあったCNの日時の調整、②担当表作成、③記録用紙・不妊ホットラインカードの作成、④電話相談の手順・対応マニュアルの作成、⑤庶務担当理事・幹事に被災地域の母子保健課への広報依頼、⑥協力の得られたCN及びそのCNが所属する職場への委嘱状送付を依頼、⑦③から⑤について理事

長へ確認、⑧協力の得られたCNへの連絡・周知が必要であった。

3月19日より各CNへ呼びかける一方で、前述した①～⑧の準備、書面理事会での審議、その後の連絡・調整・最終確認、学会ホームページへの電話相談担当表の掲載を経て、4月29日開始した。

II. 相談の構造

最終的に協力が得られたCNは、20名であった。電話相談への対応は、日本生殖看護学会におけるCNの活動として位置付け、期間は4月29日から8月31日迄とした。CNが所属する施設・不妊専門相談センターの電話回線、または個人の固定電話・携帯電話を使用、電話料金は相談者が負担し相談料は無料とした。対応した相談について、各CNが不妊ホットラインカード（相談日時・相談に要した時間・相談内容と項目・対応内容）に記録し、実践開発理事宛に送付、集計するようにした。

III. 対応の手順

電話相談は、どこから、どんな人から電話がかかってくるかわからず相談者の表情が見えないことから対面による相談より難しい。CNとして、電話相談の技術は既に経験知として体得していることも多いが、今回対応が標準化できるように、以下の基本的な留意点について確認した。①相談者の話の文脈に沿いながら聴く、②不妊ホットラインカードは相談者の全体像の把握とその中の属性は相談内容を深めるためのツールとして用いる、③相談終了と思われる時点で相談目的の達成度、他の質問の有無を確認するなどである。

IV. 相談の実際

開始後1ヶ月が経過した現在までのところ、電話による相談件数はゼロである。地震・津波による膨大なダメージからの復興に時間がかかることが予測されることに加え、放射能の不安など、被災地の状況がまだまだ落ち着かない中で、8月末まで引き続き相談体制を整えて、対応する準備をしている。

V. おわりに

自施設の勤務の状況等から、協力したくても協力が難しいという申し出もあった。一方で、「CNとしての役割を再認識させられた」「他の提案があれば教えてほしい」などの声も数多くいただいた。生命の伝承と終焉という両極を目の当たりにされた被災地域の方々のために、「自分の立場でできることをしたい」という熱い思いが、結束力の大きさにつながったと考える。ご協力をしていただいた全ての皆様に感謝を申し上げたい。

この一連の動きと支援システムが、今後のCNネットワークづくり、加えて生殖看護の実践について社会に対する発信の契機となることを願ってやまない。更に、ケアを必要とする方々への手元に届けば幸いである。

これから行われる学会・研修会等のお知らせ (2011年10月～2011年12月)

月	日	学会・研修会名	会場	学術集会照会先・事務局
10月	1日 2日	性科学セミナー（第13回） 日本性科学会（第31回） 「性の健康を未来へつなぐ」	東京慈恵会医科大学 西新橋校舎 （東京都港区）	http://www14.plala.or.jp/jsss/index.html 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 TEL：03-3480-1151(内線2751) FAX：03-3480-4739 E-mail：jsss2011@email.plala.or.jp
	15日～19日	American Society for Reproductive Medicine （第67回）	オーランド （米国フロリダ州）	http://www.asrm.org
	22日・23日	日本IVF学会（第14回）	品川プリンスホテル アネックスタワー5F （東京都港区）	http://www.ivf-et.net/ 日本IVF学会事務局 TEL：06-6534-8824 FAX：06-6534-8876 E-mail：info@ivf-et.net
12月	2日・3日	日本看護科学学会（第31回） 「社会ともに拓く看護の新たな知への挑戦」	高知県立県民文化ホール他 （高知市）	http://plaza.umin.ac.jp/~jans/ 第31回日本看護科学学会学術集会事務局 FAX：088-847-8750 E-mail：jans31@www.jp
	8日・9日	日本生殖医学会（第56回） 「生殖医療の新たな展開」	パシフィコ横浜 （横浜市）	http://www.jsrm.or.jp/ MA コンベンションコンサルティング TEL：03-5275-1191 FAX：03-5275-1192 E-mail：56jsrm@jsrm.or.jp

*2011年6月6日現在の情報です。詳細は各学会HP等でご確認ください。

第7回生殖看護実践セミナー

拳児を希望されるがん患者さんやご家族の心身社会的な状況を学び、サポートのあり方について、皆様と積極的にディスカッションをしたいと思っております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

教育推進委員会：森 恵美、阿部正子

テーマ 『拳児希望のあるがん患者への支援を考える』

【日 時】平成23年9月10日（土） 14：00～16：30

【場 所】聖路加看護大学 2号館 4階 講義室 1（東京都中央区明石町10番1号）

【参加費】会員 無料 非会員 1,000円

【プログラム】

13：30～ 受付開始

14：00～14：10 オリエンテーション

14：10～15：10 「拳児希望のあるがん患者への支援を考える」

講師：千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程 がん看護専門看護師 神津 三佳氏

15：10～15：20 休憩

15：20～15：40 事例にもとづいたグループディスカッション

15：40～16：20 全体によるディスカッション

16：20～16：30 まとめ

【交通のご案内】

*会場までの道のりは、聖路加看護大学 HP をご参照ください。

<http://www.slcn.ac.jp/access/index.html>

- 地下鉄利用の場合 -

- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅下車 3番出口または4番出口より徒歩3分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅下車 6番出口より徒歩5分

【申込方法】「氏名、所属、会員番号、連絡先電話・FAX番号、メールアドレス」を明記の上、メールもしくはFAXでお申し込みください。

【お問合せ・お申し込み先】

日本生殖看護学会教育推進委員会（担当：坂上明子）

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野内

電話& FAX 043-226-2411 メールアドレス jsfn.edu@gmail.com

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマ或いは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

【連絡先】 阿部正子 masakoA@nagano-nurs.ac.jp
 長野県立看護大学 母性・助産看護学分野
 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694
 TEL：0265-81-5159

勉強会報告**2010年度関東地区勉強会の報告**

報告者：新潟大学医歯学総合病院 吉田久美子

2011年1月30日（土曜日）聖路加国際病院2階 トイスラーホールにて、「不妊症看護の支援における養子縁組の位置づけ ～養子縁組を知ろう！～」をテーマにした勉強会が開催され、寒さも厳しく多忙な中、34名の方の参加がありました。

講師に中央クリニックの浜崎京子先生、絆の会の大羽賀秀夫先生を迎え、生殖医療での養子縁組について講義をしていただきました。浜崎先生より、中央クリニックでの養子縁組に関しての情報提供の方法や養子縁組に関する勉強会の開催、養子縁組という情報提供後の患者カップルからの反応、治療を経て実際に養子を迎えられる方のその後の話などしていただきました。そして、大羽賀先生より日本国内の養子縁組の現状、絆の会での取り組み、自らも5人の養子を迎えている親としての思いなど話していただきました。後半に予定していたグループワークは時間の関係上、会場全体でのフリーディスカッションへと変更となりましたが、2人の講師の先生方、聖路加看護大学の森明子先生を迎え、講師の先生への質問が行われました。日頃より治療を進める上で養子縁組に関する情報提供の難しさを実感しています。アンケートでは、中央クリニックでの取り組みを今後所属する施設で参考にさせていただきたいと多数の方が回答されていました。育児を希望し治療を勧める前からの選択肢として養子縁組や里親制度について情報提供する重要性も再確認できました。親子の関係は血縁ではなく信頼関係が大切であるという大羽賀先生の言葉も印象に残るものでした。

今回の勉強会で、生殖医療の現場だけでは具体的な養子縁組に関する情報提供への限界があり、養子縁組を支援する会や施設との連携も必要であると感じました。また、生殖医療を受ける患者カップルの現状や心理なども養子縁組に関わる専門職の人たちへ医療者が伝えていくことも求められるのではないかと思います。

全国各地でも同日に勉強会が開催され、どの地区でも興味深いテーマで参加したいものでした。来年度の課題のひとつとして、可能であれば日時をずらしていただき、他の地区での勉強会も参加出来ればより深く学習ができ、様々な人たちとの交流もできるのではないかと思います。

第二回東海地区勉強会報告

報告者：西垣 ART クリニック 小池 弘子

平成23年1月30日聖隷浜松病院で第二回東海地区勉強会を開催いたしました。当日は12名と少ないながら活気あふれる勉強会となりました。

聖隷浜松病院の総合周産期母子医療センター長の成瀬寛夫医師を講師に迎え、「妊婦と高血圧」というタイトルで定義から実際の治療まで幅広くかつ分かりやすくご講義頂きました。「妊娠は女性の人生のリトマス試験紙である」という言葉は、印象的でした。私たちはこの妊娠してみないと発症するか分からない予知のできない疾患に対し、妊娠する前からの啓発や家族歴、また本当に高血圧傾向のある患者の洗い出しなど出来る事は多々あると感じました。後半は看護について碧南市民病院の助産師で不妊症看護認定看護師の鈴木順子さんより講義をうけ、模擬患者を用いてグループワークを行いました。「ARTで妊娠した40代の妊婦が血圧上昇しているのに処方された薬を飲まない。妊娠するまでたくさん薬を使ったから妊娠中はできるだけ薬を使いたくない」という患者に対し様々な意見が出ました。例えば、薬を飲みたくない本人なりの気持ちを理解し、不妊治療中の思いを聞き妊娠に至った経緯を分かち合う。自分なりに努力している事があればそこを認めてあげる。その後今なぜ内服しなければいけないのか、母としてできることは何なのかを一緒に考えていく姿勢が大切ではないかという意見が出されました。また、私達が難しい（と捉えがちな）患者として出会うケースにおいて、患者の思いだけでなく夫も含めた環境や周囲まで理解することが重要です。他職種と共働して情報提供し、看護ができたならと改めて感じさせられました。

終了後のアンケートでは高齢カップルへの支援やセックスレス、男性不妊などの勉強会を望む意見を頂きました。遠くからも参加頂きありがとうございました。

「生殖看護の発展を目指して～妊孕性維持の支援」

第9回日本生殖看護学会学術集会が開催されます。

会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術集会長 上澤悦子

2011年9月11日(日)

北里大学白金キャンパス 薬学部1号館

生殖看護の役割領域をひろげていきましょう。



理事会報告

第3回理事会(書面)

日時:平成23年1月31日(月)

【報告事項】

1. 第9回日本生殖看護学会学術集会:HPの立ち上げ。
<http://www.nrs.kitasato-u.ac.jp/jsfn9th/> (学術集会HP)
<http://plaza.umin.ac.jp/jsin/index.html> (学会HP)

【審議事項】

1. 入会審査:7名の新規入会を承認。

第4回理事会(書面)

日時:平成23年4月5日(火)~15日(金)

【報告事項】

1. 実践開発委員会:東日本大震災の被災者に対する認定看護師による災害支援活動(案)としての電話相談を提案。学会HP、被災地域の母子保健課に周知。この相談活動について学会から活動証明書発行予定。
2. 広報委員会:次号ニュースレター(No.29)の原稿締め切りは6月6日。内容は次回理事会で確認予定。
3. 第9回日本生殖看護学会学術集会:遺伝看護学会、がん看護学会、家族看護学会との連携を目指し準備中。東日本大震災の影響で郵便物の配達不可能地域もあり、演題数および参加者数の確保を懸念。

【審議事項】

1. 「特定看護師(仮称)に関する提言(案)」の承認:日本看護系学会協議会が提案予定の「特定看護師(仮称)に関する提言(案)」を本学会でも承認。

第5回理事会

日時:平成23年5月13日(金)18時00分~20時20分

場所:聖路加看護大学2号館4階ミーティングルーム

出席:森明、村本、阿部、遠藤、上澤、清水、長岡、野澤、矢野

【報告事項】

1. 実践開発委員会:日本生殖看護学会不妊症看護認定看護師メーリングリスト使用の留意点(案)を作成。
2. 教育推進委員会:第7回生殖看護実践セミナー(案)の説明。開催場所は聖路加看護大学4階講義室1。学会ニュースレター(No.28、29)、学会HP、日本不妊カウンセリング学会にて広報予定。
3. 広報委員会:本学会の広報先を確認。ニュースレターNo.29の掲載記事及び原稿締め切りを確認。
4. 編集委員会:学会誌第8巻第1号を校正中。6月1日付で送付予定。投稿数確保の為、論文種類を検討中。
5. 将来検討委員会:研究助成内規(案)を修正。平成23年度研究助成募集はニュースレターNo.29、学会HPへ掲載予定。
6. 第9回日本生殖看護学会学術集会:現在の一般演題エントリー数は13題。演題申込期限を延長中。ランチョンセミナーはメルクセロー社協賛で排卵誘発剤の自己注射がテーマ。演者候補者に依頼中。
7. 東日本大震災における本学会の被災者支援活動:遠藤理事より日本看護系学会協議会に本学会の被災者支援活動を報告。
8. 看護系学会社会保険連合:本学会から平成24年度の医療技術再評価の提案は行っていないが、次回の改正(平成26年度)には提案を行う予定。

【審議事項】

1. 入会審査:2名の新規入会を承認。
2. 第10回学術集会長について:諸事情により第10回学術集会長を交代予定。新候補者に依頼中。
3. 設立10周年記念行事(2013年):設立10周年記念行事の開催に向け、チームで検討予定。チームメンバーは森理事長、村本副理事長、阿部理事。
4. 今後の学会組織について:本学会の今後の発展をめざし、認定看護師部会、地方部会の設立を提案。

もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考にしていただけるよう、相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp>) にアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
10

不育症患者さんとのかわわり

日本医科大学付属病院 横田 美穂

3期生の横田美穂です。東京の日本医科大学付属病院の産科病棟に勤務しています。

はじめに、東日本大震災で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。震災の後は、不妊症・不育症の治療をしている人を対象に行っている相談外来や、妊婦さんの保健指導を行っている助産外来でも、余震や放射能について心配する患者さんの相談が多くありましたが、現在は落ち着いています。

当院は、流産や死産を繰り返して赤ちゃんを授かることができなかった患者さんが、不育症の検査や治療を受けるために多く来院されます。前回のニュースレターでも不育症が特集されていましたが、今回は、不育症で相談外来を訪れた患者さんの相談の実際についてお話ししたいと思います。相談内容は大きく2つに分かれます。1つはどんな検査と治療を行うかを知りたいという相談です。これに関しては、当院での検査項目についてと、アスピリン・ヘパリン療法を行う場合はその方法についての情報提供を行います。もう1つの相談内容は、また同じことを繰り返すのではないかとという妊娠そのものに対する不安についてです。検査が終わり、治療の方針も決まったのになかなか妊娠をトライすることができないカップルが多くいらっしゃいます。お話を伺うと、今までの悲しみを表出できていない、夫婦間の気持ちのすれ違い、そして、不安な気持ちをどこにも表出できていないということがありました。私は、相談に来た方のお話をよく聞いて、悲しんでいいこと、泣いていいこと、自分の気持ちをそのまま夫や家族に伝えること、私たち医療者はいつも味方であること、一人にしないこととお話しします。そして、相談にいつ来てもいいこと、妊娠したら助産外来で助産師と連携し、妊娠経過、出産、育児をサポートすることをお話ししています。話ができただけで気持ちが軽くなったと話し、数か月後に妊娠したと報告に来てくれた時は一緒に喜びます。妊娠後は治療をしていない方に比べると心配や不安を強く訴えますが、その気持ちを話す場があり、自分の気持ちを分かってくれる人がいると思うと、少し安心して過ごすことができると話していました。

相談外来を始めて4年、不育症の患者さんの利用はまだ少ない状態ですが、助産外来と連携し、妊娠後のサポート体制は整ってきたので、今後は外来スタッフとの連携を強化し、妊娠前の患者さんの精神的支援体制を整えていきたいと考えています。

掲示板

<聖路加看護大学看護実践開発研究センターからのお知らせ>

不妊症看護認定看護師教育課程の研修生募集

2012年度の不妊症看護認定看護師教育課程の研修生を募集いたします。

願書受付期間：2011年8月22日（月）～9月2日（金）消印有効

試験日：2011年10月1日（土）

研修期間：2012年6月1日～2013年2月28日

*毎週金曜・土曜の2日間が授業日です。ただし、8月末～9月末の約5週間は平日連日の集中授業、1月～2月の4週間は平日連日の実習になります。

また、2011年度の聴講生も募集しております。

研修生・聴講生募集の詳細は、本学ホームページ（<http://rcdnp.slcu.ac.jp/nintei/>）にてお知らせします。

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380もしくはE-mail：jsin@slcu.ac.jpまで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので、転居・転職されているために配送されずに戻ってきているケースが頻発しています。それに伴い会費の入金も滞っていることから、今号に関しては特別に郵送で送らせていただきました。今春、転居・転職された方は事務局までご連絡願います。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp>）を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要 会費の納入をお願いします

平成22年度会費（平成22年9月1日～平成23年8月31日の諸活動に伴う会費です）の納入をお願いいたします。

口座番号：00170-2-333413 加入者名：日本生殖看護学会 年会費：6,000円

*ニュースレターに「払込取扱票」を同封してあります。過年度分が未納の方には今年度分との合計額を印字しておりますので、払込取扱票に表示されている金額の納入をお願いいたします。入金確認の時間差もことから、表示された金額が払込事実と合わない場合には事務局までご連絡ください。

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災は、2万3千人という死者・行方不明者を生み、東日本一帯に地震・津波による倒壊、液状化と広範囲の地域に壊滅的な被害をもたらしました。加えて、原発事故は問題終息までまだまだ予断を許さない状況で、日本のみならず海外にまで大きな影響を及ぼしています。また、関東地方も電力抑制策で街に活気がなくなり、経済悪化につながるのではないかと不安材料はつきません。私は、今回の災害を機に改めて人と人の絆やつながりの大切さを痛感しました。看護者が頑張っている映像に心打たれ、私達にできることはないかと心痛めた方、実際に何らかのアクションを起こした方も多いと思います。このような心こそ、復興へのエネルギーにつながるものと信じています。

今年は例年より1ヶ月早く梅雨入りしました。雨の害で被災地にさらなる被害がこうもりませんよう、そして少しでも早く心穏やかに生活できる日が来ることをお祈りして、ニュースレターの結びとさせていただきます。

（広報委員：野澤美江子、矢野恵子）

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcu.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>